審議会の概要	
名 称	第1回向日市地域福祉計画策定・推進委員会
日 時	令和7年3月25日（火）午前10時から11時30分まで
場 所	永守重信市民会館 2階 第2会議室
参 加 者	（委員）杉本委員、籠谷委員、佐野委員、岡本委員、平井委員、糸委員 村上委員、石田委員
	（幹事）柴田、安田、伊藤、紺野、大野、藤野、岩谷、田口
	（事務局）岩尾、清水
議 長	拾井委員長
傍 聴 人	1人
議 事	
1 開 会	
2	
（1） 会議の公開について	<ul style="list-style-type: none"> ・公開に関する要綱第2条の規定により公開会議となる。会議録を用意し公開することとなる。
（2） 地域福祉計画の進行状況について	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局から、第2期向日市地域福祉計画（後期計画）及び第1期向日市自殺対策計画進行表（令和6年度）に基づき、計画の進行状況を説明
【主な意見等】	
（委 員）	地域福祉懇談会について、実施方法の見直しとあるが、今後の予定は決まっているか。
（事務局）	令和7年度は次期地域福祉計画策定年度であるので、新たな場作りは今後検討していく。
（委 員）	向日市まっりの今後の予定はどのような状況か。
（事務局）	以前の会場である競輪場がアリーナ建設のため、工事中で場所の確保が難しい。現在、ステージイベントの開催を継続している。今後については、市と実行委員会等で協議していく。
（委 員）	長岡京市では、記念文化会館や中央公民館で人が集まるイベントをしている。向日市の社協まっりはスペース的に座る場所がない。もう少しスペースに余裕のある会場があればいいと思う。競輪場が使えなくなるなら、市民体育館でも良いと思う。
（委 員）	ないものと言っても仕方ないが、やり方を工夫していくのが大切。私の住む場所では、道路を封鎖して祭を開催している。

(委員) 福祉会館は駐車場がなく車を止めることができない、また、高台にあるなど、不便である。

(3) 次期計画アンケート調査の状況について

・次期計画策定に向けた市民アンケートの結果について事務局から説明

【主な意見等】

(委員) 自治会に参加している人が少ない。

(委員) 年度の終わりで自治会の班長が変わる時期となり、班長などの役ができないなどの理由で、ずっと住んでいる方でやめる人が増えた。存続は難しいと個人的に思っている。自治会加入について目に見えるメリットは感じられないが、災害時の避難する際に加入しておいた方がいいという意見はある。

(委員) 区の役員をやっているが、自治会の脱退が多い。森本区では、電子回覧板を導入している。その中で、自治会を一旦やめて、その後に復活したいという人もでてきている。

(委員) 地域の希薄化が進んでいる。12 ページ災害の手助け、17 ページ災害ボランティアの充実があり、要支援者名簿作成の対象者を中心にした地域づくりにシフトできないか。

(事務局) 防災をきっかけに地域のつながりができるのは、全国的に良くある事例。要支援者名簿の活用方法については、次の計画の取組等にあげていきたい。

(委員) 福祉は高齢者や障がい者のイメージがあるが、災害は共通のテーマだと思う。若い人の中では、災害のボランティアの意識が高齢者よりも高くなっていると肌感覚的に感じる。若い人を巻き込むには防災がキーワードになってくると思う。

一方で、自治会側も時代に合わせて変えていかないといけない。

(委員) 高齢者に携わっていると、回覧板を回せない、会費が払えないなどの、意見を聞くことが多い。

(委員) 広報が全戸配布になって良くなった。社協の広報誌「福祉パレット」について、市の広報と啓発関係についてコラボできないか。福祉パレットは以前から全戸配布にしてほしいと意見出している。町内会の中で配布していると思うが、町内会に入っていない人には配布されない。若い人はネットで調べることができるが、高齢者はできない。

(事務局) 市としては、広報誌は福祉以外の内容も多いが、一方で毎月の特集ページがあり、令和6年5月号では民生委員の日に合わせた特集を組ん

で、認知が広がったと感じている。

(委員) 社協の認知度が低く、アンケート結果を見て残念に思う。広報が足りていない。福祉パレットについて、全戸配布するのは経費的な問題がある。今年はしおりのなものを全戸配布したが、そのときは反響があった。今後は広報のやり方を考えていく必要がある。

(委員) 若い人はボランティアをするときに、ボランティアセンターを通さないのである。若い人を引きつける広報が必要だと思う。

(委員) すぐにできるボランティアがないことが課題かと感じている。

(委員) ボランティアをやりたい人は一定数いるが、どうしたらいいかわからない人が多いのでは。ボランティアの入門講座などを開いてもらえたらいいかなと思う。

(委員) 社協では分野別のボランティアの講座を行っている。全体を通じて絆作り講座や養成講座をやっている。入口は広くやっている状況です。

(委員) アンケート結果の郵送とネットの割合はどうか。郵送とネットのどちらでも回答できるようになっているのは、良かったと思う。障がいのある方を対象に活動している中で、ネットであればできるという意見をよく聞く。

(事務局) 暫定の数字ではあるが、ネットでの回答が67件。

(委員) アンケートの中で、「地域包括支援センターを知っていますか」、という問いについて、その名称が印象に残っていないので、知っているも知らないかと回答しているのではないかと感じる。専門的な単語は伝わらないと思う。全国的に決まっている部分もあるので、難しいと思うが、愛称をつけて名称を変えるなどいいかなと思う。

(委員) 私の記憶では、大阪府が児童相談所を子どもセンターとか名前を変えている。

(委員) 京都市内の包括支援センターは、違う名称をつけていたように思う。

(委員) 自殺対策に関するアンケートについて、人に助けを求めることは恥ずかしくない、という項目を実践することは簡単なことではないと感じる。

希死願望がある人への対応は、一人一人の状況によって異なるので、一概にアンケートをそのまま受け取ることはできない。専門用語が多く難しいので、一般に向けてわかりやすい言葉で周知していった方がよい。